

PORT OF THE YEAR 2021

情報誌「港湾」の読者が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2021に 川内港 [鹿児島県] が決定！

(公社)日本港湾協会では、みなとに関する優れた実績や活動により、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾をポート・オブ・ザ・イヤーとして表彰することとしております。

情報誌「港湾」の読者の方々から投票をいただき、その投票数と推薦理由から、ポート・オブ・ザ・イヤー 2021に川内港を選定いたしました。

ポート・オブ・ザ・イヤー 2021 川内港

■「みなとの元気」を高めた理由

川内港は、九州南部の西端、鹿児島県の北西部に位置し、奈良時代から交易の重要港として役割を果たしてきました。1970年5月の重要港湾への指定から2000年代以降、コンテナ航路の開設、甕島への高速船就航など地域の産業、振興、離島の生活や観光などを支える重要な役割を担っています。

2019年9月に川内港長期構想を策定後、川内港を活性化させるため、「川内港地域活性化協議会」を官民連携で発足し、輸出入強化や港利用の企業立地促進など長期構想に基づく港の機能強化を図っています。また、近隣の自治体と広域連携による集荷促進を図るため、「薩摩国広域輸出促進協議会」を設立、「次世代型林産品輸出システム検討会」を官民連携で発足し、川内港背後の林

産品輸出拡大に向け、川上から川下まで一体となった取り組みを実施しています。

近年、原木輸出が増加しているとともに、今後の木材輸出の増加が見込まれることから、大型船による効率的かつ経済的な木材輸出を行うための岸壁整備に向けて、2021年4月には国際物流ターミナル整備事業が国土交通省の新規事業として採択されました。

甕島と結ぶ高速船のターミナルと地元の農林水産物、加工品の直売等されている川内とれたた市場等は地域の賑わいの創出の場となっており、甕島の里港、長浜港と合わせて2020年11月にみなとオアシスへ登録されました。

川内港は、市民、地元企業、港湾関係者、行政が一体となってみなとの元気を創出する取り組みを進めており、今後も地域の活力の源として期待されています。



川内港航空写真



薩摩川内ポートフェア・川内港にぎわい祭り

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2021」に選ばれた川内港に対しては、令和4年1月25日(火)の表彰式において、賞状及び楯を授与いたします。また、「港湾」3月号に同港の「みなとの元気」紹介記事を掲載します。